

**防災・被災地支援をテーマに  
アジア各国からの参加フェローが共に学び、課題解決を目指す  
人材育成事業「HANDs! プロジェクト」  
3・11 に神戸で 防災について学べる催しを NPO 法人プラス・アーツと共催**

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）アジアセンターは、防災・被災地支援をテーマに、アジア各国の参加フェローが共に学び、課題解決を目指す人材育成事業「HANDs! プロジェクト」を実施しています。今年度の取り組みとして、東日本大震災の発生から6年となる3月11日（土）、市民に防災について学んでもらう催し「イザ！カエルキャラバン！×HANDs! TOGETHER in 神戸」を、神戸市で実施します。



前年度の様子（インドネシアフェローと子ども達の交流）



2016年度の会場の様子

NPO 法人プラス・アーツとの共催で神戸サンボーホールで実施されるイベントでは、事業参加者（HANDs! フェロー）が共同で考案した新しい防災教育プログラムのデモンストレーションを、プラス・アーツ開発の「イザ！カエルキャラバン」と共に実施します。この防災教育プログラムは、フィリピン、インドネシア、タイ、そして日本をツアーしながら防災や環境に関する取り組みを学んだアジア8カ国（日本、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、ミャンマー、ネパール、インド）の25名のフェローがプロジェクト期間中に開発するものです。

イベントの主な対象となる子ども達や家族連れの参加者が、防災に関する知識をゲーム感覚で身に付けられるだけでなく、国際色豊かなHANDs!フェローと直接交流することもできます。

ぜひ貴媒体でのご紹介ならびに当日の取材についてご検討いただけますよう、お願い申し上げます。

■「イザ！カエルキャラバン！× HANDs! TOGETHER in 神戸」

- 【日時】 2017年3月11日（土）13：00～15：30（予定）  
 【会場】 神戸サンボーホール1階（神戸市中央区浜辺通5-1-32）ポートライナー「貿易センター駅」より徒歩1分  
 【主催】 国際交流基金アジアセンター、NPO 法人プラス・アーツ (<http://www.plus-arts.net/>)  
 【参加費】 無料、申込み不要

<HANDs! プロジェクトとは>

国際交流基金アジアセンターが2014年より主催する、8カ国の若者がクリエイティブかつ持続可能な方法を用いた防災教育について学びあう人材育成プロジェクト。選抜されたフェローが日本を含む4ヶ国を訪問し、各国の優れた取り組みを学んだ後、自国においてそれぞれ新しい防災関連のプロジェクト（アクションプラン）を企画、実施予定。  
 ※プロジェクト詳細は、別紙およびプロジェクト公式サイト (<http://www.handsproject.asia/>) をご覧ください。

- 主催者・本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 アジアセンター文化事業第2チーム（担当：工藤、稲田）  
 Tel: 03-5369-6025 / E-mail: Maki\_Kudo@jpf.go.jp  
 ●取材に関するお問い合わせ： コミュニケーションセンター（担当：二村、諏佐）  
 Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

## 1. HANDs! プロジェクトとは?

### クリエイティブかつ持続可能な方法を用いた防災教育について

#### 8 カ国の若者が学びあう人材育成プロジェクト

#### アジアセンター「HANDs! プロジェクト」2014-2020

「HANDS! (Hope and Dreams) プロジェクト」は、国際交流基金アジアセンターが主催する人材育成プロジェクトです。アジアの国々を中心に、防災及び被災地支援について、共に学び、知識を共有、問題解決に向け協力し合う場として立ち上がりました。

現在、インドネシア・タイ・フィリピン・マレーシア・インド・ミャンマー・ネパール・日本の8カ国から、年に一度、防災に対して高い志をもつ若者を選出し、育成を行っています。2020年をひとつの目標に、アジアの地域に、防災及び被災地支援活動を根付かせる、リーダーを多数輩出し、国を超えたネットワークを構築します。

**HANDs !プロジェクト公式ウェブサイト**      <http://www.HANDsProject.asia>

#### 活動内容

この国際交流と人材育成を目的としたプロジェクトは2年間にまたがって構成されています。

1年目は、選ばれた研修生たちがフィリピン、インドネシア、タイ、日本を合計20日間に渡って訪問し、災害対応や防災教育について学びます。研修を終えた2年目以降は、研修生たちが各自で“アクションプラン”を作成し、実際に国際交流基金アジアセンターサポートのもと、新しい防災関連のプロジェクト(アクションプラン)を各国、各地域で実行して頂きます。

**1** スタディツアーで被災地などを訪問

**2** 様々な視点で物事を見つめ、アイデアを出し合います

**3** 企画書(アクションプラン)を作成

**4** 実現に向けて活動

※JFからのサポートがあります。

#### ADVISORS

ツアーやイベント・企画の実現補助など、各国から防災のスペシャリストが、継続的に関わっています。

総合アドバイザー



Hirokazu Nagata  
NPO法人プラス・アーツ

国別アドバイザー



Prof. Ikaputra  
建築家  
(インドネシア)



Ruttikorn Vuttikorn  
ゲームデザイナー  
(タイ)



Sudarshan Rodriguez  
(インド)

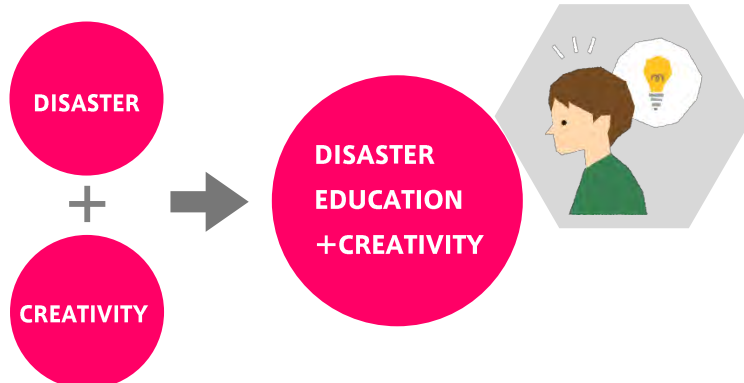
## 2. HANDs! 3つのフィロソフィー

活動を地域に根付かせ、広くたくさんの人に受け入れてもらうために、3つの行動指針を掲げています。

### ● ものごとをクリエイティブに発想する →災害+クリエイティブな発想/手法

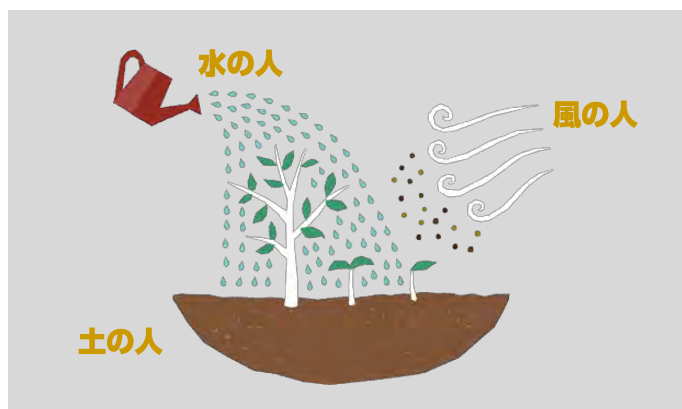
既成概念にとらわれない、ジャンプしたアイデアを尊重しています。独創性のあるアイデアこそ人を惹きつけ、実行する価値のあるものと考えます。

HANDs!プロジェクトでは、このクリエイティブな発想および手法を、特に「防災教育」および「被災地支援」の枠組みで発揮することを学びます。



### ● 「風・水・土」の枠組みで役割を把握し、自らの役割を全うする

防災教育、災害復興支援、コミュニティ再生支援等には、「風・水・土」が必要だと私たちは考えています。「土」はその地域に住む人々、「風」はその土地に「種」、つまり活動やイベントを落とししていく存在、「水」はその後も継続的に水をやり、支援していく行政やNPOのような存在。この3つの存在が揃い、それぞれの役割を全うすることで、その土地の「地域豊醸化」が実現できます。このプロジェクトでは、「風」や「水」、もしくはその両方を兼ね備えた若い人たちを育成していきたいと考えています。



**さまざまな立場から目的を共有し、活動を土地に根付かせます。**

プロジェクトを一過性のもので終わらせないためには、現地のニーズと参加者のアイデアが、しっかりとマッチすることが重要です。そこに関わる、すべての人の役割を明確にし、自然なかたちで活動が土地に根付いていく仕組みを考えます。

### ● 人びとに夢や希望をあたえます → YOU ARE OUR HOPE AND DREAMS

HANDs!は「Hope and Dreams」という言葉からつくられています。参加者は自らの存在が人びとの「夢と希望」であることを自覚し、1人でも多くの人に「夢と希望」をあたえられるよう、常に意識し、行動します。



### 3. HANDs! プロジェクト2016/2017 ー開催概要ー

**土地を知る、気候を知る、風土を知る。  
環境問題の視点から、防災のことを考えてみよう。**

#### テーマは「防災+環境」

3年目となる2016年度のテーマは、気候変動や洪水・台風などの災害に対して、要因の一部として考えられる環境問題（地球温暖化など）も含んだ防災教育のプログラムづくりを予定しています。

研修ツアーの最終日には、これらの学びを生かして、クリエイティブな手法を用いた実践的なプロジェクトをデザインして、各自のアクションプランを提案してもらいます。

全てのプログラムが終了後した2年目には、アクションプランを具体的な企画書として提出してもらい、優れた企画として国際交流基金が評価したプランについては、資金的な支援を得てアクションプランの実践にとりくんでもらいます。

#### プログラム日程

第1回研修	フィリピン（マニラ）ツアー	2016年9月25～30日
	インドネシア（バリ）ツアー	10月3～7日
第2回研修	タイ（プーケット）ツアー	2017年3月2～6日
	日本（神戸）ツアー	3月8～12日
アクションプラン	各自でアクションプランの実践	2017年4月～2018年3月

#### 参加人数

計25名

日本からの参加者は4名。日本、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、インド、ミャンマー、ネパールの各国より参加。

#### 参加資格

- ・応募時点で満18歳から35歳までであること
- ・英語で十分なコミュニケーションがとれること
- ・すべてのプログラムに参加可能であること
- ・健康で、国内および海外での研修及び生活に十分対応できること
- ・他国の文化を尊重し、他参加者と積極的に交流する意欲があること
- ・帰国後、地域においてアクションプランを実現する意欲があること
- ・社会人、学生のいずれも応募可
- ・参加費用は無料



#### 主催・共催

主催：国際交流基金アジアセンター／共催：NPO法人プラス・アーツ